

令和6年2月13日

東京都千代田区四番町5番地3  
 科学技術振興機構（JST）  
 Tel : 03-5214-8404（広報課）  
 URL <https://www.jst.go.jp>

## 出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）における BioPhenolics株式会社への出資決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）において、BioPhenolics株式会社（本社：茨城県つくば市、代表取締役 貫井 憲之、以下「BioPhenolics」という）への出資を実行いたしました。

BioPhenolicsは、筑波大学の研究成果を活用し、非可食バイオマスを原料とする芳香族バイオ化学品のバルク生産に取り組むスタートアップです。

脱炭素社会の実現に向け、バイオマス原料をもとに化学品などを製造することで従来の石油由来の工程を脱却できる、「バイオものづくり」と呼ばれる取り組みが世界的に進んでいます。BioPhenolicsは、有用な化合物を効率よく生産するように改良された微生物「スマートセル」を用いて、芳香族化合物の工業的生産を目指します。

すでに複数企業と共同研究開発を進めており、今後は事業開発と研究開発をさらに推進するとともに、研究開発技術の社会実装に向けて、大企業との協業を通じたベンチスケールでの実証実験や経営人材の獲得を加速させる予定です。

BioPhenolicsは、JSTの戦略的創造研究推進事業（ALCA）の研究課題「微生物バイオマスをを用いたスーパーエンジニアリングプラスチックの創出」（研究代表者：金子 達雄 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授、共同研究者：高谷 直樹 筑波大学 生命環境系 教授ほか、研究期間：平成22年度～令和元年度）、研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム（SCORE） 大学推進型の研究課題「芳香族化成品原料のバイオ生産技術の開発と事業化」（研究代表者：高谷 直樹 筑波大学 生命環境系 教授、研究期間：令和4年度）などの研究開発成果を基に、令和5年2月に設立されました。

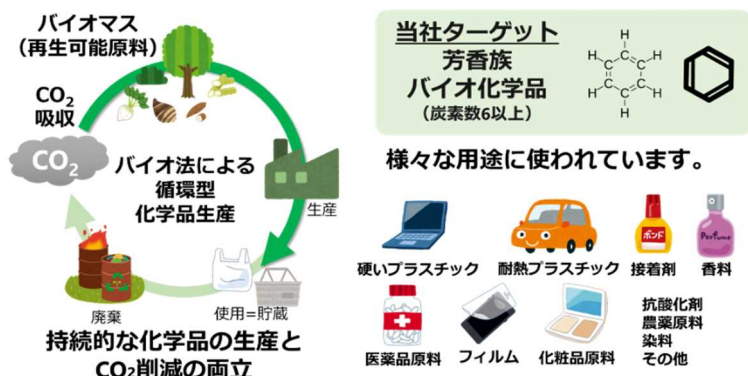


図 バイオものづくりのイメージ図

JSTは平成26年4月より「出資型新事業創出支援プログラム」(SUCCESS : Support Program of Capital Contribution to Early-Stage Companies)を実施しています。本事業は、JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業に対しJSTが出資並びに人的および技術的援助を行うことでその創出および成長を促進し、当該ベンチャー企業が行う事業活動を通じてJSTの研究開発成果の実用化・社会還元を促進することを目的としています。出資を通じてJSTがベンチャー企業の株主になることで、民間の資金を誘引する「呼び水効果」も志向しています。

URL : <https://www.jst.go.jp/entre/>

### <企業概要>

企業名	BioPhenolics株式会社 (バイオフィェノリクス)
設立日	令和5年2月
本社所在地	茨城県つくば市
代表取締役社長 (CEO)	貫井 憲之
事業内容	微生物の発酵技術によるバイオ化学品の生産

### <事業展開>

BioPhenolics株式会社は、石油化学製品からの脱却と脱炭素社会の実現を目指して設立されたスタートアップです。筑波大学 高谷教授のスマートセル開発技術に加え、精製技術・量産化技術を一貫して開発できる体制を確立することで、バイオ化学品の課題とされている量産性や経済性の問題を乗り越え、芳香族バイオ化学品の工業的生産を目指します。

### <お問い合わせ先>

#### <BioPhenolicsに関すること>

BioPhenolics株式会社

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

担当：代表取締役 貫井 憲之

E-mail : [info@bio-phenolics.com](mailto:info@bio-phenolics.com)

URL : <https://bio-phenolics.com/>

#### <SUCCESS事業に関すること>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

スタートアップ出資・支援室

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

朝賀 克栄 (アサカ カツエイ)

Tel : 03-6380-9014 Fax : 03-5214-0017

E-mail : [entre@jst.go.jp](mailto:entre@jst.go.jp)

### ＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。